

## 平成 28 年第 4 回 山武市学校のあり方検討委員会 会議録

1 日 時	平成 28 年 8 月 24 日(水) 午前 10 時 00 分から午後 0 時 00 分
2 場 所	山武市役所 第 4 会議室
3 出席委員	13 名
4 欠席委員	7 名
5 会議内容	(1)山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画について (2)その他
6 事務局説明者	教育総務課長 外

### 1 開会 午前 10 時

#### 2 あいさつ

委員長：委員の皆様にはお忙しいところを第 4 回山武市学校のあり方検討委員会にご出席を賜り、ありがとうございます。関東に 12 年ぶりの台風が上陸いたしました。千葉県館山市付近に上陸をいたしました。なかなか激しい風が吹き、農作物への被害も大きいものではないかなという思いがあります。皆様の中には被害などがありましたら、お見舞いを申し上げさせていただきたいと思っております。この第 4 回に先立つ 7 月 13 日に、第 3 回の会合を開き、そこで皆様からご意見をいただき、教育委員会が 8 月 17 日に会議を開き、その方向性について本日はご説明がございました。そのことについて、これからいよいよ動き出すという運びになっているわけがございます。どうか将来の山武市の子供たちのために、貴重なご意見、ご指摘等をいただき、より充実させていきたいと思っております。本日はお集まりいただきまして、ありがとうございます。御礼を申し上げます。

事務局：ありがとうございました。続きまして、教育長から挨拶をお願いいたします。

教育長：皆さん、こんにちは。お忙しいところお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。前回、第 3 回のときに皆さんに初めてお集まりいただきまして、この計画についていろいろご説明を申し上げさせていただきました。いろいろなご意見を聞くと大変、論点ございますが、その後、この計画案に対しまして、署名と要望書が上がってまいりました。この前期計画について、蓮沼中学校の統合に対して反対のご意見をいただいております。それを受けまして、8 月 17 日に開催された教育委員会定例会で、その件についても協議をさせていただきました。

蓮沼中学校の状況としては、既に単学級化をしております。学校運営上は非常に厳しい状態にあるというところから議論をし、そのような中では大変優先順位が高いところなのですが、地域の方たちのご意見、ご理解をやはり得ていくためには、もう少し時間をかけながら進んでいかなきゃいけないのではないかなという形になってきております。今後、この計画案に関しましては、このあり方検討委員会の後、総合教育会議等を経て、9 月の議会にはその方向性を示したいと考えているところでございます。今日のあり方検討委員会の皆様のご意見を十分に踏まえながら、進めてまいりたいと思っておりますので、本日はよろしくをお願いいたします。

事務局：それでは、これより次第の3に入ります。ここからは委員長に会議の議長をお願いいたしまして、議事の進行につきまして、よろしくをお願いいたします。

### 3 協議事項

#### (1) 山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画について

委員長：それでは、会議に入る前に、会議録の公表について確認をいたしたいと存じます。前回、皆様にお諮りを申し上げました方法で、今回の委員会も公表していきたいと思っております。皆様のほうへ前回の第3回の会議録はお手元に届いたと思っております。ご意見をいただいて、その結果として本日ここに会議録を配付してございます。そのような手はずで今後も進めてまいりたいと思っておりますが、皆様のご了承をいただきたいと存じます。よろしいでしょうか。ありがとうございます。このような方法で進めさせていただきたいと存じます。それでは、会議に入ります。議題（1）山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画について、事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局：それでは、議題（1）山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（案）について、説明をさせていただきます。小中学校の説明会について、前回の会議で説明をさせていただきました。今回は6月18日から7月29日までに行いました幼稚園・こども園・保育園での説明会の意見等について、説明をさせていただきます。資料は1ページから4ページになります。説明会を実施させていただいたのは市内こども園等で9園となり、全員で211名の参加をいただきました。小中学校の説明会、そちらが631名でしたので、合わせて842名の参加をいただいております。それでは1ページをごらんください。6月18日、おおひらこども園で保育参観の後、85名の参加をいただきました。こちらでの意見ですが、蓮沼中学校と松尾中学校が統合した場合、スクールバスはどこの地域が対象なのか、自分の地域も回れるのかという、統合してからの課題というところで、ご意見がございました。質問に対して、具体的には統合の前の2年間、統合準備専門部会というものの中で解決をしていきますと回答をさせていただきます。2番目、7月2日、蓮沼保育園で保護者会を開催していただきまして、28名の参加をいただきました。蓮沼保育園ですが、出席された方々は小学校中学校の説明会時の参加者の方が多かったということがございます。この学校の統廃合についてはなかなか理解をいただけていないご意見をたくさんいただいております。こちらは後ほど読んでいただければと思います。その中でも、中学校を残してほしい、中学校がなくなってしまうたら人口が減ってしまうというようなご意見がありました。教育委員会といたしましては、あり方検討委員会の答申を受けて、教育委員会として求める教育環境と、保護者の方々が考えている部分との相違というものを大分感じました。反対の意見がこちらは多かったです。賛成の意見はお一人からありましたが、ほとんどの方が反対のご意見でした。それでは2ページをお願いします。3番、7月11日、なんごうこども園です。こちらは親子歯磨き教室の後、行いました。10名の方に参加していただきました。2人のから反対意見、質問等がございました。続いて、7月14日、むつみのおか幼稚園、こちらは説明会のために開いていただきました。12名の方に参加いただきました。こちらは統合してからの課題として、制服等の問題で前向きなご意見等がございました。5番、7月14日、こちら説明会を開いていただきました。日向保育園で14名の方に参加いただきました。質問は、統合されるときというのは、いきなりその年度から一緒になるのでしょうか。その前に慣らし期間というか、例えば、体育祭を2年くらい前から一緒にやって交流を深めるなど、そういう考えはないのでしょうかというような前向きな質問がございました。それ以外の部分についても、統廃合についての反対意見というよりは前向きなご意見でございました。

最初の質問については、教育委員会としても事前に事業、行事等の交流を図っていききたいという事は、回答させていただきました。では、3ページをお願いします。6番、7月15日、こちらで説明会を開いていただきました。日向幼稚園で20名の方に参加いただきました。日向幼稚園も前向きなご意見をたくさんいただいております。スクールバスのこととか、学校の跡地についての質問等もございました。続いて7番、7月19日、しらはたこども園で11名の参加をいただきました。こちらで説明会のために開いていただきました。こちらのご意見についても特に反対の意見はございませんでした。続いて8番、7月29日、まつおこども園で22名の方に参加いただきました。こちらで説明会ということで保護者の方々に集まっていただきました。まつおこども園でのご質問等についても特に強い反対意見というのはありませんでした。下に書いてあります、平成31年に松尾中学校に小学校が移転した場合、体育の授業は中学生と同じ運動場や体育館で行うのか知りたいとか、そういう不安な部分はたくさんあるように思われました。統合そのものに反対しているというようなご意見はありませんでした。それでは4ページをごらんください。こちら7月29日、若杉保育園で説明会のために9名の方に参加いただきました。こちらで強い反対意見というものはございませんでした。皆さん、前向きなご意見をいただいているところでございました。以上、簡単でございますが、こども園等の説明会での内容を説明させていただきました。続いて、蓮沼中学校の統廃合に反対し存続を要求する署名の提出について、ご説明をさせていただきます。資料の5ページをご覧ください。こちらは蓮沼の学校問題を考える会より、蓮沼中学校の統廃合に反対し存続を要求する署名が、8月4日に提出されました。考える会は8名の方が来庁されており、市長と教育長が対応してございます。署名の趣旨ですが、下から5行目でしょうか、蓮沼中学校は小規模でも生徒一人一人に目が行き届き、手厚い指導が受けられる教育環境で、次の世代にも子育て環境の整った蓮沼地域で育てたい。そのために蓮沼中学校の存続を要求するというような内容でございました。市長が統合についての理解を求めましたが、考える会は蓮沼中の存続というものを求めておりました。反対署名は1,126人分です。山武市内と市外に分けますと市内は1,070名、市外が56名となります。市内のうち蓮沼地区は900名となっております。それでは資料の6ページをご覧ください。こちらは8月9日、考える会の代表の方から蓮沼中学校の統廃合反対に関する要望書というものが提出されました。要望の内容なのですが、1、2、3と書かれている3つが主でございます。1つ目は、平成36年から統廃合の話し合いを進めてほしい。2つ目は近隣市外、学区外からの寛容な受け入れができるようにしてほしい。3つ目、モデル校となるような存続できる学校の検討でございました。続いて7ページをご覧ください。7ページは大富小学校のPTAの方が行ったアンケートについての説明でございます。こちらは大富小学校のPTAの方がアンケートをしたので、その結果ということで8月12日に教育委員会へお持ちいただきました。アンケートですが、実施日は平成28年7月11日から19日まで、対象は大富小学校の保護者の方々、回答数は全世帯数77世帯のうち54世帯の方に回答いただいております。設問は主に3つでした。1つ目が成東中と成東東中の統合については賛成ですか、反対ですかという設問でした。賛成、どちらかといえば賛成という方が13世帯、反対、どちらかといえば反対の方が32世帯でした。わからない方が9世帯でした。また、1つ目の設問の賛成、どちらかといえば賛成の理由です。こちらは部活動の選択が広がるが9票、友達関係が広がるが7票、社会性・社交性が高まるが7票、競争心が高まるが5票、財政負担が減る9票、その他、仕方がない、成東中があまりにも古いというようなご意見でございました。反対、どちらかといえば反対の方の理由でございます。きめ細かな指導が難しくなるが15票、通学にかかる負担が大きいのことが30票、母校がなくなる11票、地域への影響9票、環境の変化に伴う精神的な負担が11票、その他の意見としては、防犯に関する問題、成東東中の学

区の不審者情報、素行不良の心配、学力低下、統合年度が受験になる、5校の小学校が一つの中学校に集まってしまうというような反対意見がございました。8ページについては、それぞれの方々が書いていただきましたご意見とかご要望等を記述してございますので、ご覧になっていただければと思います。今までご説明させていただいた内容等を踏まえまして、8月17日に行われました教育委員会第8回定例会において、この件について協議をいたしました。2月に実施した意見を聞く会、4月から行われている学校や園での説明会、今回の署名や要望書等に鑑み、基本的には計画を生かし、時間を要するところは修正を加えて、地区との協議を進め、計画案に修正を加える必要があるということで、継続協議となっております。修正を検討する学校というのは、平成32年度に開校を目指している蓮沼中と松尾中、平成35年度に開校を目指している成東中と成東東中学校です。こちらの学校については、地域との協議を今後も重ねていく方向で修正を加えたいと考えております。しかし蓮沼中学校においては、既に全学年で単学級となっており、統合の優先度は高いと考えております。また、成東中と成東東中においては、平成35年度の開校を目指しており、開校予定まで少し時間的な余裕というものがあつた状況でございます。今回は、蓮沼中と松尾中、成東中と成東東中学校の修正についての方向性、また計画を修正する場合の修正方法等について、委員の皆様からご意見をいただきたいと考えております。よろしくお願ひいたします。

委員長：事務局から説明がございました。それでは、私から委員の皆様にご意見をいただきたいと思ひます。全体についてご意見をいただくというよりも、2つに分けて豊岡小、松尾小、日向小、山武西小、山武中学校と山武南中学校の統合と、それから蓮沼中学校と松尾中学校の統合、成東中学校と成東東中学校の統合に分けて、議論を進めていきたいと思ひております。それでは、まず①豊岡小学校と松尾小学校について、ご意見をいただきたいと思ひます。その前に、私から事務局にお尋ねをいたしたいと思ひます。こども園の説明会を開きました。ここにおおひらこども園、蓮沼保育園、日向保育園等のところに参加していただいた人数が載っているわけですが、この人数はそれぞれの幼稚園の保護者の数はわかりますか。何%くらいの人たちが参加しているかなと思ひますので、教えていただけたらと思ひます。

事務局：蓮沼保育園が確か80数名。

委員長：おおよそで結構です。

事務局：そして、なんごうこども園は88名。園児数です。4番目のむつみのおか幼稚園が41名。日向保育園が90名ほどです。その次の日向幼稚園が79名。しらはたこども園が170名。まつおこども園が124名。若杉保育園が90名ほどです。以上です。

委員長：ありがとうございます。それではご意見をいただきと思ひます。どなたかご発言いただければ幸いです。私のほうからご指名させていただいてよろしいでしょうか。I委員。

I委員：豊岡小学校と松尾小学校の統合の部分でちょっと話したいと思ひます。1点、前回のときに最後のところでお話がありましたけれども、豊岡小学校と松尾小学校が、豊岡小が閉校になって、将来松尾小が建てかえのために中学校に仮校舎で一緒になると。その翌年に中学校が一緒になるというところで、スペースが人数的に無理があるのではないかというお話でした。そのときはお話をさせてもらわなかったのですが、確かに人数的スペース的に、これ中学、体育館もありますし、グラウンドのこと、また中学生と小学生が一緒になるという、これなかなか同じ行事もできないだろうということもありますので、その辺のお考えをもう一度お聞きしたいと思ひます。あと、そのときもありました、豊岡小学校の跡地利用について、災害があつたときに困るのではないかというお話もありました。私も現地、地理的に疎いもので、一応何も知らないでいるのもということで見てきたのですけれども、確かに片側が川で、それに付随して、多分大水が出るような場合は、それこそ成東側の一本道しか通行ができないだろうというのは

想像つきましたけれども、大災害のときは、日向小学校の周り、水に浸かります。でもそれも意見ですので、無視はできないと思いますが、その辺のお考えをお聞きしたいと思います。1点目はそれで、あと2点目なのですが、準備委員会が動き出したときに、どこかで質問であったと思うんですけども、人数が増えるということで、新しい部活をつくりたいとかいう場合に、そのほかもありますけれども、予算的なものはどのぐらい許容範囲が考えられているのかと、準備委員会のほうに任せて、ある程度は構わないよというのか、もしくはその一つ一つに対して要相談ということになっていくのかというところでございます。場合によってはかなり予算が必要になってという計画が出てくるかもしれないと思うので、その3点をお聞きしたいと思います。

委員長：事務局、お願いいたします。

事務局：まず、豊岡小学校周辺の災害対策についてご説明させていただければと思います。ご指摘のとおり、台風の際等で過去に水害がございました。これに関しましては、現在都市建設部で木戸川に関連する市町、芝山町とか、その他の市と共同で県に堤防のかさ上げ等の要望のための取り組み等を進めているところでございます。部活の関係の予算につきましては、統廃合、市のほうで主体的に進めていくものでございます。従いまして、全体経費を把握させていただいた上での話になると思うのですが、基本的には採択するような形で進めたいと考えております。

委員長：もう1点。どうぞお願いします。

事務局：スペース的なお話になると思います。松尾小学校、豊岡小学校が入った際に、スペース的な問題があります。それについては、中学校に仮設校舎を建てるような形で検討していきたいと考えております。

委員長：それでは、私から関連してですけれども、第2のほうの部活の予算というのは、I委員から質問がありました。市のほうでカバーするのか、それとも部活予算というのはちょっとよくわからないので、もう少し説明していただけますか。それから3番目のスペースの問題で言えば、仮設の校舎を建てていきますよね。その仮設の校舎というのは小学校用の仮設の校舎なのですよ。中学校の教室が空いているというと、トイレや他のものも、子供用と大人用になるんでしょうから、その辺のところはどうなのでしょう。

事務局：まず部活の関係ですが、具体的に言いますと山武中と山武南中でテニス部が片方の学校にあって片方の学校にないという状況です。これについては、あららぎ館の近くにテニスコートもございまして、そちらも活用していただければと思っています。部活の経費につきましては、学校が移転するだけですので、諸経費については総額的にはそんなに膨れ上がらないと考えています。仮設につきましては、小学校の部分が入りきれない部分について仮設を設置します。

委員長：そうするとトイレ等はどうなりますか。中学校のトイレには小学校の子供たちは入れないですよ。

事務局：トイレのお話ですが、トイレは今、松尾中学校の中で空いている教室がございまして、トイレについて、仮設校舎のほうには低学年用トイレを整備し、1年、2年、3年生になりますか、そちらのお子さんのほうに入っていて、高学年には中学校の空いている校舎に入っていていただくということで、今検討しております。

委員長：ありがとうございます。I委員、どうぞ。

I委員：校舎はいいのですが、グラウンドと体育館の共同利用になると思うんですよ。小学生は部活等やっている中で、非常にこの予定によりまして3年間一緒に、新校舎が使えるまで3年間ですので、その間かなり不自由するのではないかと思います。どうでしょうか。

委員長：どうぞ、事務局、お願いします。

事務局：部活動に関しましては、現在の小学校中学校の部活を朝練習、それから放課後の練習というようなところで、現在、使っている部活をすべて同じように実施という部分については、若干心配がございます。であります、その辺はローテーション等々使いながら、有効に活用できればなと思っております。他の学校等も曜日によって部活動の体育館使用というふうに割り振りもしておりますので、そういった形で検討できればと思っております。

委員長：そのほかにはご意見は。それでは私の方から指名をさせていただきます。G委員。

G委員：おそらく一部の地区で一番気になっているのはスクールバスの問題だと思うのですが、この冊子の17ページに運行回数は、登校時1回、下校時2回を基本とし検討することとしまし書いているのですが、低学年、高学年で下校時間違うのと、部活動終了時間、やはり3回出してもらわないと困るという話が出ています。こちらのほうは、検討のほうで3回にするっていうことは可能なのでしょうか。それと、こちらの回数、登校時の朝練の子供たちはどうするのかということですね。遠くから来ている子はかなり朝早くから家を出なければいけないし、それであれば自転車通学、部活は4年生から、4年生で部活やる子は自転車がオーケーになるのか。今日向小では6年生から自転車で来れるということなのですが、こうなった場合には4年生からでも可能になるのかっていうことがちょっと今、気になっています。それは学校で決めるのか、教育委員会で決めるのかは、私にはわからないのですが、その辺をはっきりしてもらわないと、皆さんが納得しないと思うので、よろしく願います。

委員長：原則スクールバスの問題については、委員会をつくってそこで協議をするっていうことになっています。それを教育委員会がそのとおり飲んでくれるかどうかってような問題も含んでいると思いますけれども。ここで議論しているわけですから、教育委員会の中でスクールバスについて検討されているとしたら、そこをご説明いただきたい。例えば、今で言えば日向小と、それから山武西小、その問題でスクールバスを運行するとしたら、普通よそでやっている、運行しているときには例えば1日3回とか4回とかあるじゃないですか。そういうようなことも含めて、これから話が前に出ていくことについては、当然この問題は大変な協議の問題になるわけで、用意がありましたら、ご説明をいただけたらありがたいと思います。

事務局：やはり時間2回だと、時間の中で動くしかなないので、小学校の今と同様にはいかないことは確かかと思えます。バスの配置時間が。あとは具体的に準備委員会の中で……。

委員長：準備委員会と協議をするという原則でありますけれども、私が事務局にお尋ねしたのは、そういうようなことについて、内部で検討されかたどうかについて。

事務局：今の段階ではそうになっています。芝山町では、早い人はバスに乗って1時間かかって来ることになります。帰りも同時にやると2時間かかることになります。山武西小の場合は、日向小から山武西小まで行くのに、もしバスで来るといことでスタートして2回だとしたらそれほど時間はかからないので、3回でも可能と考えています。

G委員：それは準備委員会でこうしてくださいって言うと、それをやってもらえるのでしょうか。

事務局：それは協議になります。あとバスの台数を把握する形になります。

委員長：それでは私のほうから委員長としてお尋ねします。協議をします。市とG委員からお話がありました。質問がありました。意見もありました。例えば3回にしてほしいと言ったときに、柔軟に教育委員会のほうは検討していただけますか。

事務局：もちろん検討いたします。スクールバスの運行について、いろいろ議論している中でも、どの程度子供たちを、家がそれぞれ散らばっているわけですので、どういうルートを通って、どの程度の範囲を拾っていくのか、あるいはまたそれによって、今、通学時間、きめ細かくあちこちを回っていたらそれこそ1時間もかかる。狭い道は行けない。それはある程度まとめることによって、30分以内のルートにおさめたほうがいいのかとか、そういう基本的な考

え方はいろいろ検討しています。そのような中で、実際の学校の保護者のご要望とかと合わせながら、最適なルートをもとめていければと考えています。その要望に対しての検討は十分、専門会議の中でもやっていきます。

委員長：今、事務局から話がありました。そういう話が全部整わなければ、統合というのはないわけです。統合し終わってから話をするわけではないので、ずっと話をして行って、それぞれの保護者の皆さんが納得して、よろしいという形でできる。つまり、そういうような話し合いをしていくということですから、その辺は、私は希望を持っています。

G 委員：そこでなんですけれども、今回、計画案をまずやりましたね。今年の12月から1月辺りに1回つくったときに、この計画案はその計画どおりに進みます。日向小学校が3年後か4年後になるのですけれども、その間で話し合いがいろいろされて、決まりません。保護者の要望と教育委員会の要望がうまく合わなくて、どうしてもかみ合わないというときはどうなるのでしょうか。

事務局：計画（案）を外したときというのは、統合に向けて細かい調整をいろいろやっていく。実施計画を立て、それに基づいた専門部会での細かい調整を行っていくという考え方です。

G 委員：それで、もしかみ合わなかったら、保護者のほうで、いやそれじゃ統合は無理ですとなった場合にはどうなりますか。

事務局：例えばどのような、この細かい問題っていうのは、学校名とか体操服とか、今言ったスクールバスの問題とか、実際の運営で決めなきゃいけないことはたくさん出てくると思うのですけれども。

G 委員：私が心配しているのは、スクールバスです。どの保護者に聞いても大体スクールバスの問題で。帰りの時間とか、低学年、高学年、部活の終わる時間も違う。その辺の話だけなのです。そこさえ、ある程度うまくまとめれば、小学校の部分は何とかなるのではないかなど。私はいろんな保護者と話しているときに、そういう感じは受けています。制服とか、その辺の部活の問題は別としても、スクールバスだけの問題なのですよね。ただ、私のところは歩いても行ける距離なので、さほど気にしてはいないのですけれども、4キロ、5キロもあるようなところまで通っている子もいるのです。交通量の多いところを低学年の子が一人で歩いている。そういう状況見たら、安全面を考えていただきたいなど。スクールバスも、その時間帯に合わせてやってもらわないと、安心、納得ができないなど考えます。

委員長：ありがとうございます。今お話を聞きしていて感じたのですけれども、これはもう通学路の問題を含んでいるなと思いました。スクールバスももちろん問題になるんでしょうけれども、もしかしたならば、今のお話を聞きすると、通学路の整備という問題をクリアしなければならぬような感じも受けました。それは学校あり方検討委員会の統合の問題の中で処理するかどうかっていうのは別にして、貴重な意見として日向小の近隣の、近くのところのその後については、教育委員会の中で見直しをしていただいて、ご検討いただきたい、そういうようなことを私のほうから教育委員会にお願いしておくということ。

C 委員：確認なのですけれども、豊岡小、松尾小の専門部会の中で、スクールバスを豊岡小については出すと聞いておりますけれども、松尾小はスクールバスを出さないということで、確認ですけれども、そのような形ということでしょうか。また、それは説明会の中で、松尾小の保護者の皆様も納得されたということでもよろしいでしょうか。

委員長：事務局、お願いいたします。

事務局：松尾小学校の説明会の中でここまで、スクールバスについて説明したかということ、今の段階ではしていません。先ほど来、委員長からもお話がありますように、具体的なお話については、後から設置する専門部会で進めていきたいと思っています。ただ、事務局としては既存の

松尾小学校の中でも遠方のほうから通われている子供たちがいるということは把握していますので、その点も含めて専門部会の中で詰めたいと考えています。

委員長：そのほかについて、委員の皆様方でご発言いただける方ありましたら。どうぞ。

D 委員：今の松尾小学校と豊岡小学校の統合について、あまり豊岡でも松尾でもそんなに大きな反対にはなっていないと思います。ただ、内容は全く置いておいて、経済性の問題からいけば、当然統合されたほうがいいと。子供の教育も考えたら、統合していく。中学校も。小学校中学校を統合することにおいて、松尾中学校をどういうふうな姿勢でこれから教育の対象として考えていかれるか、大平、蓮沼、これが一緒になるという前提で、今ここでお話しているわけですから、その教育のあり方ですよ。蓮沼地域と松尾地域では土地柄のイメージが違ってきます。ですから、山のほうと海のほうと、これを統合したときの。大平地区と中学校で統合なので、私の年で言うと、おじいちゃん方がみんな同級生になるのですけれども、蓮沼のおじいちゃん方とは同級生にならないのです。大平も蓮沼と隣接しているのですけれども、同級生にならないのです。ですから、その地域のコミュニケーションでいくと、大平と豊岡ではまだこうしようああしようって腹を割ったような話で進めていけるのですけれども、蓮沼の方、今の意見でいきますと、なかなかこう大平、松尾、豊岡の地域の統合した関係と、なかなか難しいと、感じている次第でございます。ただ、これからはやっぱり学校を統合することによって、山武市に人が、子供が住めるような教育も、前提にこういう教育をするから、松尾中、成東中、山武中とこの3つが主戦場になるわけですから、この教育の方針をきちんと出して、それで方向によっては中高一貫高校ができて、また小学生が高等学校のほうの千葉高校、千葉中学みたいな感じになってくる可能性もないとは言えないので、そうしますと小学校、中学校の公立の、市立の中学がまた数が減るかもしれない。そういうときに市立中学でもこういうことで、松尾、成東、山武と地域の、蓮沼もそうなのですが、そういう目標というか、ただいい町にしたいとか何とかじゃなく、具体的にこういう教育をやるのだと。頭のいい子もいるし、運動のいい子もいるし、いろんなそういう分野を広げられるような目安を持ってもらわないと困ります。こういうところで統合をやっても、ただ子供が減っていったら、またもう一つ松尾と成東の統合をしますか、松尾と山武の統合をしますか、そうなるわけで、その辺を教育委員会のほうで、もっとこういうふうにしてくれるのだなという視野を前面に出して、そのためのやむを得ない統合をしていくという方向で考えていただいたらいいかなと思うのですけれども。

委員長：素晴らしいご意見をいただいて、考えてみれば、この統合というのは具体的にどんな人をつくっていくかっていうのを大きな理念の中に持って進めていくっていうのは、大切なことだろうと思います。委員会の中でもそういうようなことを少し考えていければ。

事務局：今回の統廃合が少子化が基本になっていることは確かですけれども、その中でこれからの子供たちにどういう教育をしていくかということが一番のもとになると思います。それは各説明会でも最初にご説明をしていますし、この計画案の中でも最初に教育についての考え方というのを掲載しておりますが、社会が大きく変化していくということは、もう皆さんもご承知だと思いますし、グローバル化の問題ですとか、いろいろな問題がある中で、これからの教育に求められているものというのは、今までのような一斉授業型の知識を得るだけの形では、もう立ち行かないと考えています。それだけでは、これからの時代は生きていけないですということは言われています。その中で、どういう教育が求められているかというところにつきましては、今までの知識を得ていくだけではなく、そこから自分で問題を発見し、解決していく、人との関係をきちっと築いていけるような社会性を身につけるというようなことだと言われております。そのような教育を展開するために求められているのが、アクティブラーニングという言い方をしているのですが、今までの受け身型の授業に対して、能動的な学習と言われております。



それがどのようなものがあるのか、具体的にはいろいろありますけれども、プレゼンテーション能力を高めるとか、ディベートするとか、学級学習をするとか、自分からいろんなことを学び、そのグループの中で考えを発信していく、先生主体の授業じゃなくて、生徒主体の授業に変えていかなければいけないところはあります。少子化がどんどん進む中で、その能動的な学習形態を今後きちんと機能させていくためには、ある程度の規模の人数が必要になってきます。小規模、過小規模の学校の中では、それが十分に組み立てられない状況です。今後の教育の中では、ある程度の規模の中で、お互いのコミュニケーションを形成するというものをつくっていく必要があると考えています。私たちがどのような教育をするのかということに関しては、まずグローバル化に対応していき、社会の中できちんと課題解決がしていけるような、生きる力とか、二十一世紀型のスキルとか言われていますけれども、そのようなものをきちんと伝えられる、身につけてもらえるような教育をまず目指していきます。それは、特に子供たちの発達段階に応じていく中で、より広い集団の中で、さまざまな意見を得ながら、また自分の意見を発信していくっていうことが大切になってくるということで、今回の統合、少人数になっていくことと、これから求められる教育の変化に対応するために統合し、教育環境を整えるというふうに考えています。

D 委員：教育委員会も一生懸命やってもらいたい。一つだけ要望があります。子供によっては先生方の考えるボーダーラインがあって、その下の子供がどうしてもあらわれますよね。算数にしても理科にしても国語にしても。そういうものを少しでも、押し上げられるようなチームというか、今もやっていたいただいているのはよくわかるのですが、もっと自然に、教育向上学級といいたいでしょうか、そういうものでもって対応するってことはお考えになっていないでしょうか。

教育長：義務教育の中では、特別学級を伸ばしたりとかいうことではなくて、全体の底上げを図っていくというのがあります。ですので、今おっしゃられたような部分については、当然学力を伸ばすには小規模校のメリットと言われているように、きめ細かい配慮といいますか、指導というものが大切になってきます。少人数講師を配置したりとか、なるべく個別にみていけるような対応はとっておりますし、授業の内容によっては、学力、能力別に分けて、それに合った指導を行っているようなところもございますので、それは当然、ケアはきちんとしていくように考えていますし、現在もある程度行っているところです。

委員長：ありがとうございます。どういう捉え方をするかという問題について言えば、正面から見たり、後ろから見たりすれば、当然丸いものが四角く見えるというようなこともあるわけですが、多分統合によって得られるメリットというようなことと言えば、さまざまな人たちが交じり合う、そこで人が磨かれていくというようなことが大きな力になっていくのではないかなというような感じがあります。

私が経験したことですが、3.11の後、震災と防災について、睦岡小学校6年生のクラスで話をしました。そのときに驚いたのですけれども、私たちが小学校のときと全く違いました。大人がそこに並んでいるなというような感じを受けました。今の子供たちは、自分の意見を述べる力、それは私どもが想像している以上に大きい力のあるものであったという実感があります。これからのこの地域を担っていく子供たちがどのように育ってくれるかというのは、私たちの大きな願いでありますので、その辺のところがよく発揮できるような教育環境というのは、教育委員会の中でよろしくご検討いただきたいと思っております。もう一人、ご意見をいただいて、次に移りたいと思います。K 委員、ご意見いただけたらと思います。

K 委員：今皆さんのお話聞いていて、私もやっぱりスクールバスの件は思ったのですが、この統合後は具体的にここに計画として、実際学校からも配られていたりとかするので、周りの声

もこのまま進む計画で話をしているお父さんやお母さんもいらっしゃって、その中で一緒にスクールバスをどれくらい出すとか、必ず出すとか、ある程度出てきたほうが、反対している方も賛成の方向に進むのかな、話を聞いていて思いました。グローバル化のお話なんですけれども、実際私も仕事をしていて、私の上司からあなたの子供はもう英語が普通にしゃべれて、二カ国語をしゃべれないといけない時代がやってくるとよく言われて、一緒に英語の勉強をなさいと言われることが結構多いんですけれども。私もここに来て、やっぱり田舎のよさというか、子供が大きくなったときに、ここで育ってよかったなというような、ここにいてよかったって思えるような地域にするのと。あと新しく、山武市ってすごい何かいいらしいよという噂がたって、こっちへ新しい人たちが来るような、そんな学校の教育の仕方といいましようか。実は私が仕事の中で、幼稚園を回っているような福祉活動を、社会貢献の一環として仕事でしているんですけれども、そのときに仕事を一緒にしているメンバーがまつおこども園に一度行ったことがあって、やっぱり子育ては田舎だなとつぶやきました。それを聞いたときに、私もよかったなって、そのときに思ったのですけれども、あの雰囲気と様子を見て、その方はもともと神奈川の出身で、もう息子さんは二十ぐらいの方なんですけれども、それを聞いたときに、何かよかったと、私の中で思ったときがあり、それを少し思い出したのですけれども、そういった教育現場のお話ではないですけれども、ここで育って、よかったって思えるような小学校のあり方がいいかなと思いました。

委員長：ありがとうございます。F委員、いかがでしょうか。

F委員：今年度、まつおこども園から豊岡小に上がるお子さんは4名です。以前から、もう何年も前から地区は豊岡なのですけれども、小学校は松尾にというご家庭が何軒もありました。その理由を聞くと、やっぱり豊岡小は人数が少ないからということだったのですけれども、そのお父さんやお母さんの人数が少ないからという中には、やはり子供を大勢の中でという気持ちがあったのではないかなと思っています。豊岡地区の方はその先のことを心配されているということで、賛成ということなのかなと感じました。

委員長：ありがとうございます。それでは、ほぼ皆様のこの1番から3番までの豊岡小学校・松尾小学校の統合、日向小学校と山武西小学校の統合、それと山武中学校と山武南中学校の統合については、よしとすることをご意見をいただいたと理解をいたしております。特にこの問題について、何かご発言をしたいという方がいらっしゃいましたらいただきたい思いますけれども、よろしいですか。それでは、私のほうからこの3件については、このまま進めるということでご了解をいただくということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、あり方検討委員会としては、この3校については、今後教育委員会において精力的に協議をし、またスクールバスの問題も出ていますけれども、どうか皆さんが喜んで統合してよかったなと思えるようなことが結果として出るような形で、皆さんご努力をいただきたい、そう思っております。それでは、続いて蓮沼中学校と松尾中学校の統合、成東中学校と成東東中学校の統合について、委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。

E委員：冒頭の事務局の説明の中に、蓮沼中学校の統廃合反対に関する要望書ということについて、こういう運動をやっているとうわさで聞いていまして、ただ内容については初めて拝見させていただきました。先ほど、Dさんからお話がありましたけれども、統合の問題が話し合われている中でも、具体的な内容としては、行政合併前の旧山武町地区、旧成東町、旧松尾町ということの中で事が行われているような気がしています。気がしていますというか、具体的にそういうふうに進んでいると思えますけれども。その中で、蓮沼地区だけは説明の中にもありましたけれども、既に単学級になっているということで、どうしても疎外感を持たざるを得ない状況にあるのではないかと。この内容を見ても、具体的ではなくて非常に抽象的な反対意見が多

くて、やはりこのまま統廃合というか統合されてしまうと、蓮沼地区全体の存続が危ぶまれるような、そんな感じを受けます。これを見ますと、子供だけの問題じゃなくて、地区全体の問題に発展しているなという気がしています。私は、行政の運営上はいたし方ないことだとは思いますが、懸念に思うことは通学距離です。蓮沼地区から松尾中へ通うことが通学距離として妥当なのかどうか。正直なところ9キロ、10キロくらいの距離になるかと思います。なぜ決められたところにしか行けないのか。例えば蓮沼地区から成東東地区へ行くことを選択肢がなぜされないのか、その辺がこの先、不安に感じるところなのです。と言うのは、蓮沼地区で今子育てをしている方たちというのは、蓮沼地区で小学校中学校を終えたいというので、他地区から移住された方が結構いらっしゃいます。もともと、そのおじいちゃん、おばあちゃんの代から蓮沼にいて、代を重ねて蓮沼でという方もいらっしゃいますけれども、割合から言ったら、新しく移住された方々の子供たちのほうが多いのではないかと感じています。ですから、余計こういう意見が出るのではないかと思うのですけれども、これはあくまでも、統合されたら蓮沼地区の中学校の通学というのは松尾地区に限定されるのですか、松尾中学校に。その辺がちょっと疑問として残るところなのですから。

委員長：ありがとうございます。どうぞ事務局。

事務局：今、ご質問いただきました蓮沼中学校の現生徒は必ず松尾中学校へというようなことでお話をいただきましたけれども、通う中学校についてはもちろん必ず松尾ということではなくて、成東東中学校のほうが距離的には近いというようなこともあろうかと思っておりますので、すべてが必ず松尾中学校に入学するというようなことでは捉えておりません。

E 委員：もう1点伺いたいのですけれども、通学距離についてはどのような考え方なのか。統合された場合、例えば成東地区から成東東中へ通うことについて、その通学距離について何か意見出なかったのでしょうか。

事務局：この案にもございますように、通学距離ということで、中学校についてはおおむね6キロというようなことを捉えておりますが、すべて6キロ範囲内かということ、現段階でも学校によっては、子供によっては7キロ、8キロ通っている生徒もおりますので、教育委員会としては、中学校についてはおおむね6キロを範囲というようなことでありますので、蓮沼中の生徒が松尾中に実際に通うとなると6キロでは済まない距離になってくるかと思っておりますので、そういったところについてはスクールバス等々の、先ほどお話ししたような検討をしていきたいと思っております。

E 委員：スクールバスというのがその次の検討策だと思います。今行っているこの会議は、統廃合についてのお話し合いだと思いますので、スクールバスを出す出さないというのは、ちょっと触れないでおきたいと思っております。そうしますと、その6キロというのが平均的な距離とお考えですか。

事務局：平均的と言いますか、基本と言いますか、6キロが一応中学校としては通える範囲というようところで捉えております。

E 委員：私の家から松尾中学校まで行きますと、既に7キロを超えます。6キロで考えていた中で、もう既に7キロを超えていることを実行に移すというのはちょっとおかしくないですかね。

事務局：今、通学距離のお話をいただいておりますが、基本的な部分については蓮沼中学校の学校規模が大変少なく、子供たちの数が減って単学級だというようなところが原点のスタートでございます。先ほどお話ししたように、6キロという基本を出しておりますので、冒頭お話ししたように必ず蓮沼中学校の生徒は松尾というような捉えではなくて、例えば地域によっては成東東中学校に通ったほうが距離的には近いというような生徒もおるかと思っておりますので、そのようなことで通学距離については考えているところでございます。蓮沼中学校については距離ももちろ

んなのですが、学習環境、子供たちの環境を整えるということで、統合を進めていきたいと考えておるところでございます。

E 委員：ありがとうございます。やはりその辺の説明がうまく伝わらないと、保護者の方たち、あるいは地域の住民の方々への納得いく説明にならないと思います。今この反対意見をもって、内容を精査してみると、やはり学校がなくなってしまう、あるいは学校が遠くなってしまう、そういうイメージのほうが強いのだと思います。ですから、その6キロというお考えの中で、もう少し視野を広げると、やはり6キロの範囲には成東中というのが、ウェートが多くなると思うのですけれども、その辺をもう少しかみ砕いて、蓮沼中と松尾中ということではなくて、そういう考え方でうまくもっていければ、統合ももう少しスムーズにいくのではないかなという気がするのですけれども。

委員長：今委員がお話のように、中学に行くときに選択の幅を広げるというようなことについては、あり方検討委員会として今ご意見をいただきましたので、検討してほしいということを事務局に申し上げていくということではいかがでしょうか。その問題については蓮沼小を卒業するときにはどの学校を選択するかということについて、もう少しフレキシブルに、自由に考えられるような方法を、教育委員会としてとってほしいという意見を申し上げておくということではいかがでしょうか。

E 委員：そうですね。将来的には当然必要になると思いますし、それが先ほどDさんが言われたとおり、今後、子供の数が減ったときに、今度は松尾中と成東東が一緒になるのかとか、いろいろな問題、組み合わせがあるでしょうから。

委員長：その辺のところは、今ご意見をいただきましたので、そのような形で事務局へお願いをしておくということで。

E 委員：ぜひお願いしたいと思います。やはり山武市全体として考えていかないと、今見えていますとやはり旧山武町、旧松尾町、旧成東町みたいな、そのような中でやろうとしているから、いろいろ問題が出てきているのだと思います。

委員長：そういうようなご検討を、どうぞ教育委員会の中でも精力的にお願いしたいと思います。それでは、H委員、ご意見をいただけたらと思います。

H 委員：私は、この成東中学校と成東東中の統合について、個人の意見ですけど、中学生が6キロを自転車で通るのは苦じゃないと思います。部活動で成東東中から東金東中へ試合に行く子供たち、身近で見ていると。それが3年間の通学となったとき、部活動はたまにあるから苦じゃなく見えますけれども、3年間通うとなったときにはちょっと負担になる距離なのかなと改めて思われました。そして成東中のご意見、やはり学校に強く持っている愛とか大きいなと思ったのですけれども、老朽化がすごく問題になっていると思います。校舎を残してほしい、残してほしいって言っても、やはり老朽化ということで、今度はイコール耐震工事という面でまた大きなお金が動くとか。年数がたつにつれて、しょうがないとまとまっていく問題っていうのは、みんなで保護者の方は納得していると思うのですけれども。バスの問題もそうですし、スムーズにいかないのは今まで長く、おじいちゃんの世代、お父さんの世代で、成東中が蓄積されてきたものを見ると、やはりその郷土愛というのが強すぎるのかなというのでもありますけれども。もっとあたたかく、スムーズに、子供が少ないから、単なるひとまとめにして学校を運営していきますというのは、簡単なやり方なのですからけれども、皆さんが納得するというと事細かに、何度も出ていきますけれども、スクールバス、あとは多感な子供たちが一緒になるという、中学生なので、子供は環境変化にすごい適応能力があるので、一緒になったことですごく張り合いが出て、逆にメリットもあるのですけれども。保護者は自分の子供のことが大好きなので、ほかの子と、私もそうですけど、言葉が悪いとか強い子と、穏やかな子が一緒になると、

子供の気持ちの情操教育、誰しも子供の環境はどうだろうかとか、保護者として見ると、子供の環境が変わるのが不安になるというのは、すごくわかるのですが。細かく保護者の皆さんと、こういった意見はこの一部のお話ですけれども、もっと会議を開きまして、言いにくい質問もきちんと答えられるような体制を、市でも教育委員会でも、もっと皆さんと密になって、いい形をとっていきたいと思います。

委員長：ありがとうございます。J委員どうぞ。

J委員：皆さん方の意見を聞いていますと、統合の問題で賛成か反対かというよりも、具体論に入っているようなことが大分聞かれました。そこで、先ほど委員長のほうから、前期計画の小学校についてと、山武中・山武南中については、今回では進めてよろしいというような話が出ました。そうなってくると、先ほど、話がありました、スクールバスの問題とかというのは、大分賛成・反対の進め方に影響するというような話が出ていましたので、この計画案の中でも、準備専門部会は開校2年前から発足させるというような話を書いてあります。これは、前回にも言いましたけれども、2年ではちょっと遅いのではないかと。早めにこういうことから少し詰めていけば、今こういうような問題がなくて、スムーズに行くのではないかなと、それが一つ気になりましたので、その答えをお願いします。それからもう1点、今日の計画案を提示されたときの説明の中では、今回の委員会では松尾中、蓮沼中、それから成東中、成東東中の計画時期を修正したいという説明がありましたが、それはどういう理由から得られたのか、それを一つお願いいたします。それと修正するとしても、期間はどのくらいを考えていらっしゃるのか。それから修正しようとしている理由がどんなところからそういうふうなことでなったのかと、その3点をお願いしたいと思います。最後に、この修正をするのであれば、当然具体的にその方向性を見つけるまでの案を持たなければならないと思いますけれども、何か具体的な方法を、従来の説明会とは別なものがあるのでしたら、お示ししていただければと思います。以上です。よろしくをお願いいたします。

委員長：事務局、お願いをいたします。

事務局：ありがとうございます。スクールバスの問題を早めに検討しておくということなのですが、実は検討をしていないわけではなくて、子供さんたちがどのような位置にいるのかということで、地図に落としたりとか、そのような検討はしております。どのようなルートで走って、回していけばいいとか、本数についてはこの計画案の中にもありますように、朝1本、夕方2本というような基本的な考え方は持っておりまして、それについては今後も早めに検討していく必要があると思っております。また、計画案の修正ということにつきましては、反対の要望書、署名等があり署名の数も1,126人ということで大変多くの方が反対をされているということもありまして、教育委員会の定例会で委員さんたちの中で協議をしていただきました。計画の実施の時期なのですけれども、具体的にいつにしようということまではまだ検討はいたしておりません。ただ、蓮沼中については32年の開校を目指しているということには違いはありませんが、地域の方たちにご理解を得られていないということで、修正が必要ではないかということになっております。この後、具体的な計画の案ですけれども、これについては今のところまだ、このようにしようということの案はできておりません。今回、あり方検討委員の皆様のご意見をいただき、その後、市長部局との総合教育会議の場をもちまして、どのように進め、計画案を直していったらいいかということを進めていきたいと考えております。

J委員：それでは、蓮沼中の関係については32年度、それから成東中の関係に関しては35年度、この統合年度は基本的には変えないということですね。そうすると、修正をするということになると、どんどん日にちが、計画期間が縮まっていきますよね。苦しくなってくるのではないのでしょうか。ましてこの準備専門部会の設立が決まってから、さかのぼって2年前にやろうとす

ると、もうこの32年度開校とすると、蓮沼中、松尾中の関係については30年度から準備しなければならないのは、ここで29年度から計画期間が31年度は遅くなってくると32年度になります。短くなってくるのではないかなという感じがしますが、これはよろしいんですか。

事務局：教育委員会として教育環境を整えるという意味では早急にやらなくてはいけないのではないかと考えはございます。ただ、地域の皆様、またこのような反対のご意見をいただいておりますので、その辺の開校の時期等については、少し修正をしていかななくてはならないのではないかと、今回、皆様のご意見をいただきたいところでございます。

J 委員：そうすると、この委員会で皆さんに審議していただいて、あるいはその結果によっては、統合年度というのは変わるという可能性も考えられる、そういうことですね。

委員長：そのように考えます。それでは、B委員、お願いします。

B 委員：私の息子は高校2年でございまして、蓮沼中学校で3年間、そして卒業後も、縁があり2年間蓮沼中学校をつぶさに見てまいりました。

まず教育委員会がおっしゃっているようなグローバル化に対応できる人間か否かが、果たして人数をまとめてやるのがほんとうなのかどうなのか。私も5年間にわたり蓮沼中学校でいろいろ生徒並びに現場にいる先生方の声、そして生徒の声を聞いてまいりました。まず教育環境におきましては、先生方の意見から申しますと、いろんな中学校に皆さん行かれて、蓮沼中学校どうなのですか、単学級はどうですかと言ったら、学校教育環境が非常に他校に比べてもいいと。そして、進学校の進学率がほかの中学校よりかなり高いということが、それは教育環境が整っておりまして、もちろん生徒たちもいいということがありますでしょう。そのために、進学校における進学率がいい。つまり、教育環境は非常に、とりあえず今は整っているのではないかと。大人数に対して、じゃあ何で蓮沼中学校はそうしたことができるのかというと、それはきめ細やかな教育ができていう証拠でもあると思います。ですので、単に一つにして、大きくしてグローバル化、それはもっともなご意見でございしますが、じゃあ果たして小さい学校が全然そんなグローバル化に対応する人間ができないのかというと、これはまた疑問だと思います。これはその上に行った高校に行く環境とか、そういったものが非常に大きく作用してしまっていて、単に学校を大きくしたからグローバル化に対応できるのか否かというのは、それは個人格差によるものが大きいのではないかと、私は思っております。蓮沼の人が今まで一つの学校、小中学校を通しまして、世の中に対応できなかったのかと申しますと、これは大きな間違いでございします。ですので、教育環境におけるのが、蓮沼中学校が単学級でも今のところはやっつけられる。今後はわかりません。人数が大幅に減少したときは、これはほんとうに考えなければなりませんけれども、現在、中学校で大きな問題がある、あるいは教育環境が悪化するというような、そういった察知は、私には伺えませんでした。それから、先生方の負担が大きい。じゃあこれ学校でできるのかと。生徒が減って、先生方が減る、学校の運営がうまくいくのかということに関しましては、確かに大変ではあるけれども、今のところやっつけられるというような回答も多く出ました。それから、今回の統廃合の見直しをする要求の署名についてということは、私は7月の末まで外国におりまして、帰って来てそのことを知りました。活動内容はパンフレットとか新聞折り込みがあったので、こんなことをやっているのだ。中心になっている方がまず保護者たちです。ですので、保護者たちはすごく危機感を持ってやっつけられている。そして、非常に短期間で900名、蓮沼地区900名というのは、人口のおよそ20%、俺も声がかからなかったから書かなかったよという人たちがまだまだたくさんおりました。それは郷土愛からくるものだと思いますけれども、こういったことから地元の理解が全く得られていないという環境のもとで、これを強引に推し進めた場合、果たして教育環境にいいのか

どうかということが、大きな疑問でございます。ですので、修正という意味では、さらなる協議が必要だということなので、これは妥当だと思います。それが何年なのかということとはちょっと協議内容によりますけれども、とりあえずは修正、あるいは逆に言いますと、教育委員会の立場からは全然違いますけれども、きめ細かな教育というのもまた必要なのだという視点から、小中一貫校という、もう一つの案もぜひともこの修正の間に入れていただければと思います。教育委員会の立場からしますと、グローバル化に向け、その一つ一つが世の中にかえって、世の中に活躍できる人材をつくるということでございますが、果たしてそういった人間をつくった後、統合した後に、その子供たちが鮭のように戻ってくるのか。これは学校もないところに人は戻ってこない。今この反対した人たちの大きな意見でございます。つまり、学校の教育のその種をつくる元さえもなくなってしまうという、大きな問題を、今はらんでいるということも、同時に考えなければならぬ。10年後、これは統合は必要だ。しかし、30年後、40年後になったときに、果たしてそこから子供がいなくなってしまうときに、その統合が正しかったかどうかというのは、またこれ考えなきゃならない問題だと思います。今我々は10年後、20年後を見据えておりますが、30年後、40年後の山武市の姿というのも同時に考えなければならぬのかなと、私は思います。ですから、蓮沼の人間が単にエゴで、郷土愛からきているというのではなく、もっともっとそこから考えてきている問題だということも、同時に我々は考えなくてはならないのかなと思います。以上です。

委員長：ありがとうございます。地域社会をどう見ていくかというような問題と、学校教育というのはある種リンクしています。それは確かに私も認めるところではあります。事務局で何かご意見がありましたら、いただきたいと思います。

事務局：ありがとうございました。今のお話をお伺いして、一点、教職員の負担であります。B委員さんのほうでお伺いしたということですが、実際に職員が各教科に一人しかいないというような状況でありますので、職員が1年生から3年生まで担当するという部分。それから一人しかいない部分、例えば出張ですとか、どうしても行かなきゃいけない研修ですとかに行った場合、その時の授業の実施ですとか、そういった部分で大変苦勞しております。あと、昨年1年間、職員それぞれ有給休暇というか、お休みがとれるのですが、丸々1日、長期休業じゃなく、子供たちがいる日に、丸々1日休みをとれた職員が、おりませんでした。とらなかつたという部分なのでしょうけれども、そういった状況もあるということで、正直教職員への負担という部分は、他の学校に比べると大きいのかと思っております。もちろん、子供たちの生徒指導的な部分で今落ち着いた状況の中で、やりやすい教育環境にあるという部分はあるのですが、教職員一人一人の負担という部分は、他校の職員に比べると大変負担が大きいのかと。あえて保護者の方々には頑張っていますよという部分でお話してくれているとは思っております。本来であれば、職員がそれぞれの教科に2名ずついる環境が望ましいです。大学をすぐ卒業しても一教員です。何十年か勤めても一教員です。そういった部分で、若い先生方はある面、先輩の先生方に教わりながら、自分も教師力を高めていくという部分もございまして、できれば複数いて、教員という部分でも勉強してほしいなという思いがあります。

委員長：ありがとうございます。どうでしょうか。委員の中でご発言ありましたら、お受けをいたしたいと思います。

G委員：蓮沼に関して、分校という立場はどうなのでしょう。私は千葉の分校を知っているのですが、何でも、何で千葉は大きいのに分校なのかと思ったのですが、やっぱり距離が離れていて分校ということなのですね。蓮沼のほうも、例えば松尾中学校蓮沼分校という形にとれるのであれば、どうかと。それは私には専門外なので、よくわからないんですけど、ただ分校にした場合にどういうものになるのかなと思って聞いてみました。

委員長：ありがとうございます。委員会の中で分校という制度についてお答えできますか。

事務局：こういった場合が分校だという部分は、資料を持ち合わせておりませんので、また確認をさせていただきます。お話をさせていただければと思います。

委員長：それではどうぞ、C委員。

C委員：非常にそれぞれの考え方がよくわかって、私も前回思いのたけをすべて話させていただきました。この蓮沼中また松尾中、成東中、成東東中の問題についても、先ほどB委員がおっしゃったように、私もこの中に入って、やっぱり30年先、40年先を見てほしいという思いが、根底にありましたので、そうなるといういろいろな細やかなことをどうしても意見を言いたくなってしまうというところで、この計画案という形で進んだわけですけれども、教育委員会としてはさまざま苦渋がありましたし、また選択もしなければならぬという中でのことだと思いますけれども、私といたしましては、このままでよいのかということも含めて、それだけにとどめておきますけれども、深い議論を行ってきたわけですけど、そのところをぜひ教育委員会には考えていただいて、その上でのまたさまざまこれからの流れがあるわけですけれども、それは経ていただきたいと思います。私としては、前回意見として申し上げたとおりですので、それ以上のことは申し上げないですけれども、ぜひともお願いしたいと思います。

委員長：ありがとうございます。蓮沼中学校と松尾中学校の統合、成東中学校と成東東中学校の統合について、時期について32年、35年という時期がこの案の中で示されているわけでありますけれども、中身のご質問の中で、教育委員会が検討をするというご発言がありました。今後、この委員会として教育委員会に申し上げる方向としては、多分この時期についてさらなる検討をし、それからさまざまな意見を集約して、継続していくということであったと理解をいたしております。進む方向としては、この2校についてはそのような形で今後進めていくということによろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

委員長：ご了解いただけたと思います。事務局に申し上げますが、この32年と35年の数字をとった場合、私たちのほうでいつということを検討して申し上げたほうがよろしいのでしょうか。それともこれでよろしいですか。事務局にお尋ねをいたします。

事務局：ありがとうございます。開校の年度につきましては、今後、教育委員会の中でまた協議をさせていただきたいと思います。今日のあり方検討委員会の中では、1番から3番までについてはご理解をいただけたということ、成東中学校と成東東中学校、蓮沼中学校と松尾中学校については、これは統合の時期というのはさらなる検討が必要であろうということによろしいでしょうか。

委員長：ただいま事務局から確認がありました。それでよろしいですね。ありがとうございます。それで結構です。よろしく願いいたします。

事務局：ありがとうございます。

委員長：最後に事務局から、よろしいでしょうか。

事務局：どうもいろいろなお意見ありがとうございます。細かい点を言いますと、例えば通学距離の問題とか、まだまだ説明、我々が今まで十分検討してきたことを皆さんにお伝えしなければいけないことがたくさんあると感じたところではありますが、おそらくその疑問に思われている点等については、検討した経緯がありますので、また機会をみてきちんとご説明させていただきたいと思います。委員長からお話がいったように、本計画の進め方についてのご意見をいただいたということでございますので、これをもとに市長部局長の総合教育会議等を経て、修正の



案等をつくっていきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。本日はありがとうございました。

## (2)その他について

委員長：それでは、次に（2）その他に入ります。事務局より何かありますか。お願ひします。

事務局：今後なのですけれども、本日いただいたご意見を踏まえまして、教育委員会で協議を行い、計画を修正させていただきたいと考えております。教育委員会において、成案とした後なのですけれども、こちら1番から5番まであります3つについては、皆さんのご理解をいただいた。4番、5番については修正をしていくという考えの中で、成案とした後ですけれども、対象地域ごとの実施計画というものを作成してまいります。平成31年度の開校に向けて、松尾小と豊岡小、山武中と山武南中の統合に向けての準備を進めてまいりたいと思ひます。実施計画については、次回のあり方検討委員会で協議をしていただくことを考えておりますので、よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

委員長：そのほか、委員の中で何か最後にご質問ご意見ありましたら、いただきたいと存じます。よろしいでしょうか。それではなければ、これをもって第4回山武中学校のあり方検討委員会を閉会といたします。本日はご協力いただきまして、ありがとうございました。ご苦勞様でした。

## 4 閉会 午後0時